

2024年度 決算について

2024年度は、収入面においては、新入試制度を導入したことによる志願者数の増加や、国債等の配当金の増加等によって、予算額を上回りました。

支出面においては、人件費支出が60,266千円、教育研究経費支出が181,134千円、管理経費支出が151,421千円予算より下回っています。一方、施設関係支出においては、本校地北側の土地の取得、新校舎建築工事の着工費用やバイオサイエンス研究センターの改修工事、設備関係支出においては、老朽化した実習室の視聴覚機器の更新、講義室の音響設備の更新等により、予算額を上回りました。

○ 資金収支計算書

(1)収入の部

学生生徒等納付金収入は、ほぼ予算額と同じ4,308,226千円となりました、手数料収入は前掲の記述にもあるように、予算額を上回り75,574千円となりました。一方で、寄付金収入、補助金収入は予算額を下回る結果となりました。

資産売却収入は、第335回利付10年国債、事業債の満期償還、投資信託の売却、ユーロ債の一部売却分です。そのほか、雑収入は職員の退職により、退職金財団から退職資金が交付され、予算額を大きく上回りました。

(2)支出の部

人件費は、予算額を下回り1,859,033千円となりました。教育研究経費、管理経費についても、ともに予算額を下回り、教育研究経費が1,640,265千円、管理経費が387,378千円となりました。

施設関係支出では、本校地北側の土地の取得、新校舎建築工事の着工費用やバイオサイエンス研究センターの改修工事等により、予算額を上回りました。

設備関係支出については、実習室の視聴覚機器の更新、講義室の音響設備の更新等で、予算額を上回り、149,714千円となりました。資産運用支出は、国債・株式投信の購入、減価償却引当特定資産の組入などで、7,162,009千円となりました。以上により、翌年度繰越支払資金は、4,244,563千円となりました。

○ 事業活動収支計算書

(1)教育活動収支

「教育活動収支」は、学校法人の本業である教育研究事業の収支を表しています。学生生徒等納付金収入(4,308,226千円)の経常収入(5,162,840千円)に占める割合(学生生徒等納付金比率)は83.4%で、経常費等補助金収入(421,173千円)の経常収入に占める割合8.2%(経常費補助金比率)と合わせると91.6%となり、本学の収入の大部分を占めています。

教育活動収支における事業活動支出においては、人件費(1,844,678千円)の経常収入に占める割合(人件費比率)は35.7%です。また、教育研究経費は2,267,681千円となり、経常収入に占める割合(教育研究経費比率)は43.9%となりました。

(2)教育活動外収支

「教育活動外収支」は、経常的収支のうち教育活動以外の収支で主に財務活動の収支を表しています。本学は、債券、投資信託、定期預金等の受取利息・配当金収入のみで、教育活動外収支差額は163,337千円となりました。経常収支差額(教育活動収支差額+教育活動外収支差額)は569,139千円となり、経

常収支差額比率（経常収入に占める経常収支差額の割合）は11%となりました。

(3)特別収支

「特別収支」（特殊な要因によって一時的に発生した臨時的な収支）の特別収支差額（特別収入－特別支出）は△224,887千円となりました。

(4)事業活動収支差額比率

事業活動収入は5,188,230千円、事業活動支出4,843,978千円となり、基本金組入前当年度収支差額は、344,251千円、事業活動収支差額比率（事業活動収入に占める基本金組入前当年度収支差額の割合）は6.6%となりました。

(5)基本金の組入れと翌年度繰越収支差額

基本金は、第1号基本金に70,700千円、また、新校舎建築に伴う費用は第2号基本金から第1号基本金に振替えました。また、第3号基本金には奨学基金に24,025千円を組入れるなど、計103,980千円の基本金組入となりました。この結果、当年度収支差額は240,271千円となり、前年度からの収入超過額954,027千円を加え、翌年度繰越収支差額は1,194,298千円となりました。

○ 貸借対照表

(1)資産の部

有形固定資産は、新校舎建築に係る建設仮勘定が増加したこと等により、前年比142,846千円増の11,996,626千円、特定資産は、減価償却引当特定資産の計画的組入等により、前年比369,649千円増の23,422,830千円となりました。また、流動資産は、前年比49,270千円減の4,405,639千円となり、その結果、資産の部合計は、前年比438,356千円増の39,920,044千円となりました。

(2)負債の部

負債のうち、固定負債800,515千円は退職給与引当金を計上しています。流動負債956,346千円は、未払金、前受金、預り金を計上しています。この結果、負債の部合計は1,756,861千円となりました。

(3)純資産の部

基本金103,980千円を組入れ、基本金の合計は、36,968,884千円となりました。繰越収支差額は1,194,298千円となり、その結果、純資産の部合計は、前年比344,251千円増の38,163,182千円となりました。

○財務状況の分析

事業活動収支決算をみると、収入面は、志願者数の増加等に伴い、予算に対し約62,000千円の増加となりました。支出面においては、人件費、教育研究経費、管理経費が予算額を下回り、予算に対し400,921千円減少しました。これにより、教育活動収支差額は405,802千円、経常収支差額は569,139千円となりました。一方、特別収支は、成績の振るわない有価証券の売却等で予算に対し支出が110,277千円増加したことにより、特別収支差額はマイナス224,887千円の赤字となりました。この結果、特別収支差額の影響により、基本金組入前当年度収支差額は344,251千円となり事業活動収支差額比率は6.6%となりました。

また、基本金の組入に関しては、新校舎の建築に係る固定資産の費用を第2号基本金から第1号基本金に振替えたこともあって、他の基本金の組入額と併せ合計103,980千円となりました。これにより、当年度収支差額は240,271千円となりました。

○財務上の課題、今後の方針・対応方策

本学は、2004年から株式会社格付投資情報センター（R&I）の格付「AA-（ダブルAマイナス）」を取得しており、2024年度も「AA-」を更新しました。薬剤師国家試験の合格率や就職率の高さに加え、「先端的な研究に支えられ、建学の精神に根差したファーマシスト・サイエンティストの育成を追究する大学」の実現に向けた取組みが評価され、2024年度も格付を更新し、引続き「AA-」を維持しました。

2025年度の事業計画・予算方針については、教育の質保証を向上させるため、S T比（教員一人当たりの学生数）の改善を中心に進めていきます。また、新校舎の建築においては、2026年2月の竣工に向けて、工事を着実に進めており、新しい教育環境を整備するとともに、共同利用機器の整備等、研究面においての充実も図ります。さらには、企業や京薬会等卒業生との連携を深め、多くの優秀な「薬学人財」を社会に輩出し、社会に貢献する役割を強化していきたいと考えており、京薬ブランドをより向上させていくための十分な資金を確保することを目標とします。